2026年９月

「パリ声明」
アカデミーの独立性と学問の自由

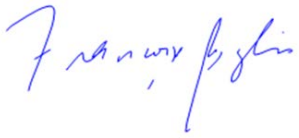
2025年のオタワ宣言に示された諸原則は、引き続き根本的に重要である。科学の進歩の持続可能性、国際協力、そして科学的助言の信頼性は、研究者とアカデミーが、公共善に資するために、独立性、自律性、誠実性、透明性、そして責任感をもって活動できる条件が整えられていることにかかっている。

2026年、S７は、日本学術会議の提案により、アカデミーの独立性と学問の自由に関するセッションを開催した。このセッションは、各アカデミーの代表者が活発かつ建設的な意見交換を行う重要な機会を提供した。

議論では、アカデミーの独立性は、その法的地位のみによって決まるものではないことが強調された。このプロセスの実効性は、統治の仕組み、資金構造、そして優先課題を特定し、検討を主導し、不当な干渉を受けることなく助言を伝える実際上の能力によって左右される。独立性は、社会的に重要な課題に取り組み、そのことを通じて重要性を示し、信頼性を促進することのできる能力と結び付いていなければならない。

参加者はさらに、制度的自律性と学問の自由は、強固な内部的実践によって支えられていることを指摘した。そのような実践には、厳格な審査、多様な専門性と視点、そしてコンセンサスに基づく立場と議論を目的とした成果物との明確な区別が含まれる。複雑で見解の対立する領域において、アカデミーは、科学的厳密性と知的誠実性を適用することにより、エビデンス、不確実性、および考え得る対応の選択肢を明確に示すことで、社会の発展に貢献してきたことが示された。

パリでの議論は、アカデミーの独立性、科学的探究の自由、そして科学的助言の健全性を守ることが、恒久的な責務であり、不断の取組であることを確認した。変化する世界情勢の中で、これらの条件は、民主主義社会、効果的な国際協力、そして公共善を支える知識の発展にとって不可欠である。



FRANÇOISE BAYLIS
Royal Society of Canada



FRANÇOISE COMBES
Académie des sciences



BETTINA ROCKENBACH
German National Academy of Sciences Leopoldina



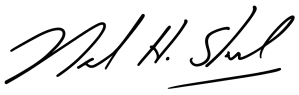
ROBERTO ANTONELLI
Academia Nazionale dei Lincei



MAMORU MITSUISHI
Science Council of Japan



PAUL NURSE
The Royal Society



NEIL SHUBIN
National Academy of Sciences